

## 1.3 コンニャク温湯種芋消毒機の導入について

- 農薬を使わずに病害虫を防ぐ -

情報提供：利根農業事務所普及指導課

### 活動の背景

コンニャクは、根腐病に代表される難防除病害虫が存在しますが、そのほとんどが種芋伝染によるものです。そのため、農薬による防除が行われているものの、薬剤処理後の再汚染や耐性菌の出現から、防除効果が低下している事例が見受けられています。

### 活動の経過

農業技術センターでは、コンニャク種芋の温湯消毒という、農薬を使用しない消毒方法を考案し、農機メーカーの協力を得て温湯消毒機を開発しました。

これにより、健全な種芋の確保が可能となり、作柄の安定や持続的農業等の推進にも期待できる技術として、実演会を10月6日に開催しました。

実演会には、利根沼田地域の農家をはじめ農協や市町村、県関係者を含め約70名の参加がありました。

温湯処理技術を開発した農業技術センターから、温湯処理の病害防除効果や処理時の注意点などが説明され、機械の製造にあたった農機メーカーから使用方法など、実演を交えた説明が行われました。

### 活動の成果

参加者からは、「一度に処理する量が少ないため、大規模農家には小さすぎる」という意見も出されましたが、「生子の処理ならば充分期待できる。共同で購入して使用しても良いのではないか」という意見も聞かれました。

まだ、農家の実規模で温湯消毒が行われていないため、様子を見たいという農家も多いようでしたが、農薬を使用しない消毒方法として、特別栽培や有機栽培での農家の使用も期待されています。



【実演会のようす1】



【実演会のようす2】

### 技術のポイント

温湯種芋消毒機（こんにゃく工房）は、一度に約100～120kgの生子の処理が可能で、生子を50の温湯に40～50分間浸漬することで、種芋伝染する複数の病害虫を同時に防除することができ、農薬使用と同等の防除効果を得ることができます。

この温湯種芋消毒機は、現在(H21.1)まで県内に約20台の予約があり、農家の関心は高まっています。